

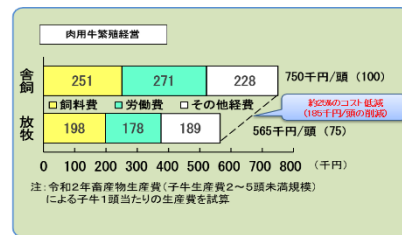
熊本型放牧高度化支援事業

【自給飼料増産及び省力化への対応】

予算額19,345千円（デジ田交付金活用）

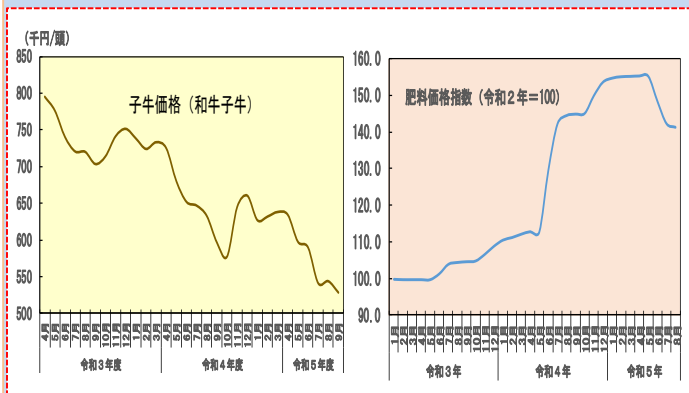
（担当部課：農林水産部畜産課）

- 子牛価格が下落傾向にあり、生産コスト軽減のツールとして放牧の重要性が高まっている。
- 一方で、放牧に係る担い手不足や放牧草地の牧養力向上に必要な肥料等の生産資材価格が高騰しており、放牧頭数の減少につながるおそれ。
- 従前のスマート農業技術の導入等の取組に加え、草地の牧養力向上の取組への支援を強化し、放牧の更なる推進を図る。（※）牧養力：放牧地1ha当たり500kgの成牛1頭が何日飼えるかを示す指標



<現状・課題>

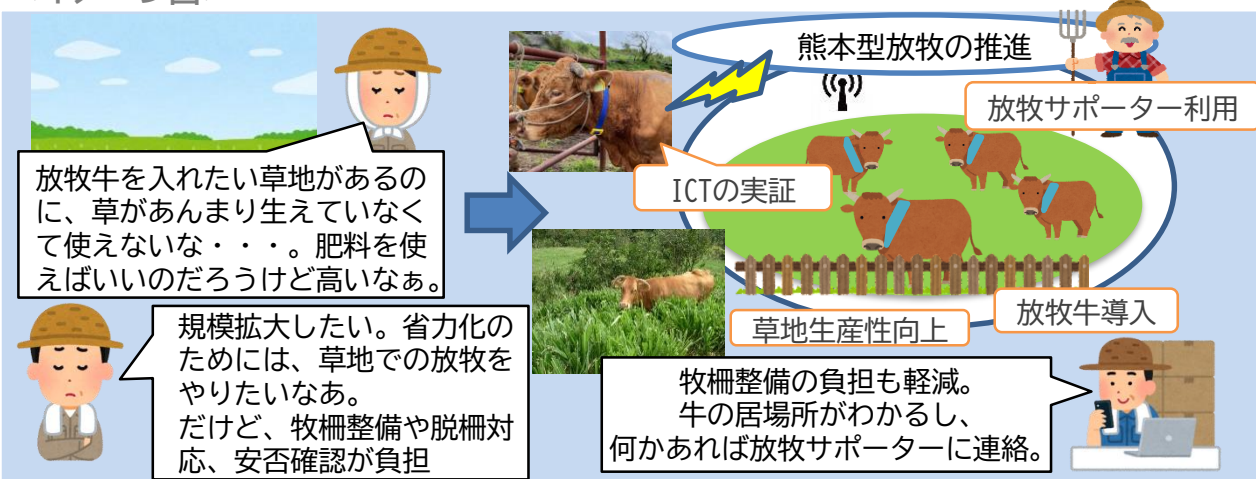
- 子牛価格が下落傾向にあり、経営コストの削減が喫緊の課題に。
- 放牧は有効であるが、畜産農家の高齢化が進み、放牧条件整備や放牧牛監視業務が困難に。
- さらに、草地の牧養力維持に必要な生産資材価格が高止まり。



<目的・概要>

- 全体事業費：19,345千円
- 事業内容：
 - (1) 高度化放牧条件整備 14,050千円
 - ①放牧牛管理用ICT機器導入、②放牧条件整備、③草地生産性向上対策
 - (2) 放牧牛導入補助 4,500千円
 - 熊本型放牧拡大のための放牧牛導入補助
 - (3) 放牧推進事務費 795千円
 - 事業実施に係る事務費
- 負担割合：(1) 国1/4、県1/4、事業主体1/2 (2) 定額 (国1/2、県1/2) (3) 県10/10以内
- 事業主体：(1) 農協、農協連、3戸以上で構成する営農集団等 (2) 市町村、農協、農協連等
- 事業期間：令和3年度～令和7年度

<イメージ図>



従前の放牧管理における労働負担の軽減、あか牛等の放牧牛導入支援に加え、**生産資材高騰に対応した草地生産性向上対策が必要。**